

項目	内容
名称	セイヨウキンミズヒキ、アグリモニー [英]Agrimony [学名]Agrimonia eupatoria
概要	セイヨウキンミズヒキは、中央ヨーロッパから北ヨーロッパ、温帯アジア、北アメリカ原産のバラ科の多年草で、高さ1 m程度に生長する。葉または全草がハーブティーなどに利用されている。
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セイヨウキンミズヒキ (アグリモニー/アグリモニア) 全草：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。</li> </ul>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンニン (アグリモニン、エラジタンニン、ガロタンニン)、フラボノイド (アピゲニン、ケンフェロール、ルテオニン、ケルセチン、ケルシトリン、フラバン3-オール、フラボノール、フラボン)、テルペノイド (<math>\alpha</math>-アミリン、ウルソール酸、オイスカピン酸)、イソフラボノイド、フェノール酸、クマリン、サリチル酸、ケイ酸などを含む (<a href="#">PMID:12628408</a>) (<a href="#">PMID:17215090</a>) (<a href="#">PMID:15588663</a>) (<a href="#">PMID:17673826</a>) (<a href="#">PMID:17313151</a>) (<a href="#">PMID:15981197</a>)。</li> </ul>
分析法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茎に含まれるフラボノイドをHPLC、HR-FAB-MSで分析、NMRで同定したという報告がある (<a href="#">PMID:20699556</a>)。</li> <li>・草本に含まれるポリフェノールをHPLC-DAD-CAD-MSで分析したという報告がある (<a href="#">PMID:24001902</a>)。</li> <li>・葉と茎に含まれる揮発性成分をGS-MSで分析した報告がある (<a href="#">PMID:24286016</a>)</li> </ul>

。
   
・地上部に含まれるポリフェノールをHPLC-DAD-MS、HPLC-DMACAで分析したと
   
いう報告がある ([PMID:15981197](#))。

有効性	
循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	・ドイツのコミッションE (薬用植物評価委員会) は、下痢の抑制に対するセイヨウキンミズヒキの使用を承認している (58)。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
ヒトでの評価	<p><b>その他</b></p> <p>・健康な男女19名 (平均27.79±11.83歳、ブルガリア) を対象とし、茶 (地上部を乾燥させたもの1 gを200 mLの熱湯で抽出) を200 mL x 2回/日、30日間摂取させたところ、血中脂質 (HDL-C)、総抗酸化能の上昇、I L-6の低下が認められた。一方、血糖、血中脂質 (TG、LDL-C、HDL-C/LDL-C比)、抗酸化力、CRP、TNF-α、アディポネクチン、レプチンには影響がみられず、血中脂質 (TC) の上昇が見られたという予備的な報告がある。この現象についてはさらなる検証が必要である (<a href="#">PMID:23078582</a>)。</p>
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。
参考文献	<p>(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳</p> <p>(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、別添3、一部改正について)</p> <p>(58) The Complete German Commission E Monographs</p> <p>(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)</p> <p>(101) PDR for Herbal Medicines Fourth Edition, Thomson.</p> <p><a href="#">(PMID:12628408) Fitoterapia. 2003 Feb;74(1-2):133-5.</a></p> <p><a href="#">(PMID:17215090) Fitoterapia. 2007 Feb;78(2):166-8.</a></p> <p><a href="#">(PMID:15588663) J Ethnopharmacol. 2005 Jan 4;96(1-2):145-50.</a></p> <p><a href="#">(PMID:17673826) Biofactors. 2007;29(2-3):91-104.</a></p> <p><a href="#">(PMID:17313151) J Sep Sci. 2007 Jan;30(1):122-7.</a></p> <p><a href="#">(PMID:15981197) Biomed Chromatogr. 2006 Jan;20(1):88-94.</a></p> <p><a href="#">(PMID:20699556) Biosci Biotechnol Biochem. 2010;74(8):1704-6.</a></p> <p><a href="#">(PMID:24001902) J Pharm Biomed Anal. 2013 Dec;86:112-22.</a></p> <p><a href="#">(PMID:24286016) J Anal Methods Chem. 2013;2013:246986.</a></p> <p><a href="#">(PMID:23078582) Arch Physiol Biochem. 2013 Feb;119(1):32-7.</a></p> <p><a href="#">(PMID:21669271) J Ethnopharmacol. 2011 Sep 1;137(1):937-41.</a></p>